

ぼくは、東日本大震災から今日で5年が経
っていろいろなことを考えました。今日の追
悼集会では、テレビで被災地の状況や、ふ
るさとに帰りたくても帰ることができない人
がいるんかと思。てとても悲しい気持ち
になりました。ぼくは、あの時、帰ろうとした
時に突然地震が起こってとてもびっくりし
ました。そしてしばらく学校に行きことがで
きなくなっちゃって大変でしたが、たくさんの人に
支えていただき同じようにまた学校に通うこと
ができるようになった。てしてもらえしかたです。あのぼく
は世界中の人に感謝したいと思いました。

私は5年前小学2年生でした。地震がおきた時はとても
こわがたのま今でもはきり覚えています。学校での避難生活
や仮校舎での勉強などつらい事もたくさんありました。でも
世界中の方々から支援物資をいただいたり、はげましの言
葉をいただいたりしてつらい事も乗り越えられました。何事もか
んぱらうと思いました。その時私はあらためて助け合う事の大切
さを知りました。震災の時はたくさん助けられました。
次は私達の番です。今までたくさん助けられた分私達は
常に感謝の気持ちを持たずにいろいろな事にチャレンジしてい
きたいです。

私に震災から5年が過ぎていることは今でも感謝の気持ちと共に、1日1日を大切に過ごして行くということです。5年前のあの日はまた一生で、まわりで何か起きているのか分からず、ただ泣くばかりでした。しかし避難中に世界中からメッセージや支援物資が届いて、世界中から応援されている気持ちになりました。ある日、お父さんから「学校は避難先の方か!!!? それとも都路か!!!?」と聞かれました。私は「迷わず都路か!!!」と答えました。私は都路路に帰ると言っていました。しかし都路路がどうなっているか不安でした。でも家も残っている、学校もあつたよかったです。このことから、これから感謝の気持ちと共に、1日1日を大切に過ごしていきたいです。

震災という悲しい出来事があった時、私は小学2年生でした。地震なんていつものこと、なんて思っていました。家帰って、お母さん、お父さん、兄弟と一緒に実家になんしました。テレビをつけてみれば「全部のチャンネルが」地震でくずれたビルや津波のみにまわった色々な町、物などで引込につかまっている人、あの時テレビに写っていることが全部はげまじりでした。何日かすれば「帰る、ものの生活に戻れる」と思っていたのに、5年が過ぎても、まだ仮設にいたり、ふるさとに帰入りたいた帰ることにできない人が何万人といることはとても悲しいです。今私達が生まれていること、都路路中学校にいたり、友達がいること、先生がいることはあたり前ではないということを私たちが後世に伝えていきたいです。あと30年ぐらいたつみんな震災のことでなつた思い出しているなんてことのないように、自分なりにがんばりたいです。今私はとても幸せです。今幸せじゃない人々の幸せをお手伝いしたいです。

5年前の今日「東日本大震災」がありました。

大震災の時私は友達といっしょに体育館で遊んでいました。遊んでいると先生達が早く体育館の外に逃げろと言ったので何が来たのか分からなくなり外に逃げたけど地面がずぶずぶあっていました。私は家がどうなっているのかが心配でしたが家に帰ると棚の上がぐちゃぐちゃの物が落ちていました。台所にはガラスの瓶が落ちていたので中に入る事ができませんでした。私は住んで石森小学校に幼稚園になり家もアパートを借りて生活する事になりました。アパートの近くに住む人はみんな優しく温かい人ばかりでした。なので私も大人になっても震災があったら人を助けられる優しくできる人になりたいと決心して働きたい時に思いました。

そして都路に帰ってこれたのは近くにいる物々の人々のおかげだと思います。

平成23年3月11日 思いがけぬ大震災が起きました。

早くはその日、いつも通り学校が終わって友達と体育館で遊んでいました。突然、すごく大きな地震が起きました。とっせいの大きな地震にみんなが混乱していました。次の日原発が爆発してしまいました。早くは仮校舎で3年間過ごしました。早くはこの3年間に沢山の助けを受けながら生きて今があるのだと思います。それは1人では何事もできません。しかし「人が支え合うこと」で助け合ったりして大きなものを乗り越えます。都路に戻ると、沢山の人が笑顔で早くたのびを返してきてくれました。大震災から5年が経ち色々な経験をしました。これは絶対に忘れることはできません。いけないうちを思い出して、今度は早く早く困っている人を助け、世界の人から笑顔になることを願っています。

私は、震災から5年が過ぎて、あの時のことを今でもおぼえています。つらいことや悲しいことがたくさんありました。「これからどうしていけばいいのだろう」と思ったこともありました。でも、たくさんの人たちに助けをもらったり、お世話になったこともありました。すごくうれしかったし、人との関係が大切だということを改めて実感しました。都路に帰ってきた時、地域の方々が、学校の前でむかえてくれて、「お帰りなさい」と言ってくれて、心がとても温かくなりました。今では、都路中学校というところで、勉強や部活動に、いっしょけんめいはげんでいきます。これからも、強い心を持って、自分の夢をかなえていきたいです。

5年前の3月11日に起こった東日本大震災。あのときの震災では、都路はたくさんの方がいなくて本当に良かったと思いましたが、しかし、他の県の中では、つれてこられた人もたくさんいます。

またこの東日本大震災で、他のところから、たくさんの方からの支援を頂いています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。僕たちは、その支援などのおかげで、今こうやってふるさと、都路に帰ってきて、生活できているのだと思います。

この震災や復興の中で、僕は感謝の心と家族の大切さ、協力を学びました。震災が起きた、やはり支えてくれたのが一番は家族だと思ったり、しかし、その家族だけでなく、優しくしてくれた地域の方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからもがんばっていきたくてです。

私は、震災の時、何が起きていたのか、どんなに大変な事なのか、ぜんぜん分かりませんでした。ひたすらテレビを見て、「んかじょうきょうなの」がわかりました。その時は、「木からどうなるんだ」「さ」などといが思いませんでした。

私は富岡にも家があります。原発の事故で、行くことは出来ませんが、家の中には入れません。父に聞くたびに「くさくさ」なのでは。私の富岡の家は他の場所と比べて、きれいなほうなので、家がなくなるとまた人の気持ちは分かりませんが、同じ被災者としておうえんしたいです。

震災から5年が経ち、あたりまえに生活することは大変な気が、感じます。私は直接は復興には関係することは出来ませんが、日々の生活を大事にして、いつか復興に関わる仕事が出来ればいいと思います。人に比べた人が笑って過ごせる日がくるといいと思います。

5年前のその日、僕は小学2年生で、児童館との交流会の直前で、50分ぐらいに出発する予定でした。そんな時、大きな地震が来ました。「おじ終ある」と思っていたら、先生に外に出るおに言われ、外に出ておに土砂崩れがきて、校庭の登り棒が土砂にうもれて、しかもまた地震が続いていて、その時におにや、危ないと思っおめたのを覚えています。

そのおに、別の校舎で学校を再会でき、支援物資ももらって、たくさんの人に支えられているんだとわかりました。僕は「おたりまん」な事ほどおたりまんでは無いと思っおいます。今学校に来ていること、勉強できること、今生きている事ほどおにすべてに感謝をしおかげら生活におと改めて思っおいました。

東日本大震災が起きた時、私はまだ小学2年生でした。

その時のことを、逆に言えば、その時のことだけをはっきり

覚えています。時間がたつても忘れられない経験になりました。

先生が用意してくれたVTRを見て、私たちはもう

ほとんどが元の生活に戻って、あたりまえのまうに暮らして

いることが、またまた復興が進んでいらい、所々たくさん

あることと知りました。私たちにとってはあたりまえでも、

他の人たちからしたらあたりまえではない世界で暮らして

いるんだな、と思いました。私は、このこととし、胸に

刻み、その他の人たちの未練を晴らせるための生活をしていき

たいと思いました。

あの日、ぼくは、帰りの学活をしていました。地진이来てから、

机の下にかくれました。そのころは、地じんとうのはあまり分からなかったのて、

前をって、君とかがとつながっていました。しゃべっているとき

机の上に何かか落ちてきてぼくはびっくりしてしまいました。校庭にみんなも

した、周りはしゃべっていた人もいたし、泣いていた人もいました。そのとき、家族

や家かとても心配になりました。ぼくの家は、学校から歩いて5分

くらいのところにあります。なので大丈夫かと思っていました。10分くらい、

向かい歩いてくれば家に到着して家は、お店から来た、お宮さんが3人くら

座って泣いていました。その夜は、たくさん地じんが来てお疲れのたこと

を覚えていて、しんぶんで見ている本物かまわ、なので僕はいか

感謝の気持ちを、これからも覚えていきたいと思います。

都路にもどってきたけど人が少なく
てさびしいなと思います。

もとたくさんの方が帰って来てい
るような話しができるなと思います。

たくさんの方のおかげで都路にもど
ってきたので今自分にできることをかん
がひたいです。